

第Ⅱ章 調査に至る経緯と概要

第1節 調査に至る経緯

遺跡は国指定史跡今帰仁城跡の周辺地域広域にわたって立地している。基本的に調査対象地域は今帰仁ムラ跡とした今帰仁城跡北側緩斜面約4haの集落遺跡である。ただし、今帰仁城跡を理解する上で欠くことのできない23haの保全地区についてもできる限り踏査を行い、情報収集に努めた。また、広く今帰仁城跡の直近の集落等、関連する遺跡や文化財についても調査を行っている。

今帰仁城跡周辺遺跡は、グスク周辺地域に所在する遺跡の範囲確認を目的として、既に昭和60年に試掘調査が行われている。これによって当該遺跡の概要については周知されるところである。しかし今帰仁村歴史文化センターの建設及び、平成4・5年度に駐車場やトイレなどが建設された際には、当地の発掘調査が行われることはなかった。この時の整備が今帰仁城跡の便益施設として整備されたこと、当時村には発掘調査を専従で担当する職員が配置されていなかったこと、発掘を行うことによって事業が遅延することを行政的に対応できなかったことが、主な理由である。このため遺跡地域を盛土され、埋土保存という施工によって駐車場を設置した。しかし、平成3年度に策定された『今帰仁城跡公園基本構想・基本計画』では当該地区に遺跡が広がっていることから、設置されたばかりのグスク広場について撤去計画を立案する形となっている。その後、平成7年度には今帰仁村歴史文化センターが開館し、今帰仁城跡のガイダンス施設として来訪客を集めている。

一方、平成12年12月今帰仁城跡を含む県内9遺産が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された。このことから、平成7年度完成の既設駐車場では不十分であり、かつ史跡指定地内にある仮設駐車場の早期撤去が望まれていた。このように周辺整備の気運が高まる中、既設駐車場の大規模な配置変更を含んだ整備計画が策定される。当初計画は今帰仁ムラ跡東区の埋土保存という施工を行うという計画を基本としていたが、平成13年度に策定した『今帰仁城跡周辺整備計画』によって、西区の既存施設の大規模な改修計画が示された。

この計画を基に、村では計画地域の周知の埋蔵文化財包蔵地（今帰仁城跡周辺遺跡）における発掘調査については、建設工事着手前に埋蔵文化財を対象とした調査が必要と判断し、既設駐車場の撤去→発掘調査→今帰仁城跡周辺整備事業の工事着手の方針を確認した。しかし、遺跡の規模が大きく、発掘調査となれば数年以上かかることから、現在の村教育委員会の体制では作業が難航することが明らかであった。そこで、平成15年度に体制の強化を目的に発掘調査を担当する職員の増員等、調査体制の拡充をはかり、およそ2年間にわたる今帰仁城跡周辺遺跡の発掘調査を遅延なく完了することができた。しかし実際には調査の終盤となった9次調査（Ⅲ区b）および10次調査（Ⅱ区a）については、本報告が未刊のままとなっている。また、実施した関連遺構調査、シニグンニ、ミーミングスクの遺構図についても未報告のままである。

他方、村では上記の今帰仁城跡周辺整備着手以前より今帰仁城跡周辺遺跡についての重要性を認識し、鋭意継続して調査を実施している。特に平成16年度から平成18年度には今帰仁ムラ跡の実態解明に向けて、文化庁および県の補助とご指導を得て諸種の調査を実施している。調査は、石垣に囲まれた屋敷地空間と考えられる地区の精査（第4次・第12次調査）、ハンタ道の測量や今泊集落内における遺跡踏査を行ってきた。なお、調査は遺構検出面までで留める方法を採用し保存をすることを最優先課題としている。

このような調査を実践する中で得てきた知見は、今帰仁城跡を理解する上で欠くことのできない資料になっている。本報告書では、膨大な量となる上記の調査経過をまとめ、特に今帰仁城跡の北側緩斜面に所在する今帰仁ムラ跡・ハンタ道・石積み遺構の実態について報告することで、改めてその重要性を認識し、今帰仁城跡の追加指定に資する資料を提示することを主な目的とする。

第2節 調査組織

今回の調査報告書は平成16年度から平成18年度に実施した村内遺跡調査における成果を中心とする。しかし以下の調査についても概要を紹介し本報告に掲載する。調査内容に係る事業は以下のとおりである。

昭和59～60年度 今帰仁城跡周辺遺跡範囲確認調査事業（文化庁補助事業）

平成14～16年度 今帰仁城跡周辺整備事業に伴う緊急発掘調査

平成16～18年度 村内遺跡発掘調査（文化庁補助事業）

平成9～18年度 これまで今帰仁村教育委員会が表採や立会などで得てきた知見

発掘調査等にあたっては安原啓示（今帰仁城跡調査研究整備委員長）、本中眞（文化庁記念物課）、玉田芳英（〃）、坂井秀弥（〃）、禰宜田佳男（〃）、島袋洋（沖縄県教育庁文化課）、盛本勲（〃）、金城亀信（〃）、中山晋（〃）、新垣力（〃）、知念隆博（〃）、瀬戸哲也（〃）、安里嗣淳（沖縄県立埋蔵文化財センター）、當眞嗣一（グスク研究所）、松川章（浦添市教育委員会）、安和吉則（〃）、仲宗根啓（那覇市教育委員会）、仲宗根禎（名護市教育委員会）、赤嶺信哉（〃）、黒住耐二（千葉県立博物館）、土肥直美（琉球大学医学部）、高橋誠一（関西大学）ほか多くの先生方からご指導ご鞭撻いただいた。記して謝意を表する。

〈平成16年度〉

| | | | |
|-------------|---------------------|-------|-------|
| 事業主体 | 今帰仁村教育委員会 | | |
| 事業責任者 | 教育長 | 山城 | 清光 |
| | 教育長代理 | 吉田 | 克巳 |
| | 社会教育課長 | 諸喜田 | 展生 |
| | 社会教育課長補佐兼歴史文化センター館長 | 仲原 | 弘哲 |
| 事務総括 | 文化財係長 | 當山 | 清巳 |
| | 文化財係主事 | 玉城 | 寿 |
| 調査担当者 | 文化財係専門員 | 宮城 弘樹 | 玉城 靖 |
| 発掘調査アドバイザー | 金武 正紀 | | |
| 調査補助員（臨時職員） | 与那嶺 俊 | | |
| 資料整理指導 | 黒住 耐二（千葉県立中央博物館学芸員） | | |
| 資料整理 | 上間 恵子 | 玉城 美都 | 知念亜紀乃 |
| | 仲里なぎさ | 西谷麻希子 | 松本 綾子 |
| | 与那嶺いずみ | | |

〈平成17年度〉

事業主体 今帰仁村教育委員会
事業責任者 教育長 田港 朝茂
社会教育課長 諸喜田展生
社会教育課長補佐兼歴史文化
センター館長 仲原 弘哲
事務総括 文化財係長 田港 朝津
調査担当者 文化財係専門員 宮城 弘樹 玉城 靖
文化財係主事 玉城 寿
発掘調査アドバイザー 金武 正紀
調査補助員（臨時職員） 与那嶺 俊
発掘調査作業員（臨時職員）
仲村 善洋 田港 朝史 宮城 章 平安愈美子 大城ヒデ子 玉城 京子
仲宗根直美 仲原シズエ 仲原美代子 玉城留美子 大城いち子
資料整理（臨時職員）
上間 恵子 松本 綾子 玉城 亜紀 玉城 静香 鈴木 美和

〈平成18年度〉

事業主体 今帰仁村教育委員会
事業責任者 教育長 田港 朝茂
社会教育課長 諸喜田展生
社会教育課長補佐兼歴史文化
センター館長 仲原 弘哲
事務総括 文化財係長 田港 朝津
調査担当者 文化財係専門員 宮城 弘樹 玉城 靖
発掘調査アドバイザー 金武 正紀
調査補助員（臨時職員） 与那嶺 俊 具志堅 亮
資料整理指導 樋泉 岳二（早稲田大学講師） 黒住 耐二（千葉県立博物館学芸員）
資料整理指導 高宮 広土（札幌大学教授） 土肥 直美（琉球大学医学部助教授）
神谷 厚昭（金城町石畳地質研究所）
亀井 明德（専修大学教授）
高島 裕之（駒澤大学禅文化歴史博物館）
柴田 圭子（愛媛県埋蔵文化財調査センター）
新島奈津子（専修大学博士後期課程）
発掘調査作業員（臨時職員）
仲村 善洋 島袋 貴行 宮城 章 平安愈美子 大城ヒデ子 玉城 京子
仲宗根直美 仲原シズエ 仲原美代子 玉城留美子 大城いち子 玉城 光則
金城 政則 諸喜田富士子 松田 清美
資料整理（臨時職員）
上間 恵子 松本 綾子 玉城 亜紀 玉城 静香 當山 巳和 知念 飛鳥
仲里なぎさ